



おおあし

第6号

《 大芦小HP <https://oashi-e-konosu.edumap.jp/> 検索 》

学びは楽しい 深い 「勉学の秋」

何をするにもふさわしい季節、それが「秋」です。「スポーツの秋」「芸術の秋」「勉学の秋」「読書の秋」「食欲の秋」「行楽の秋」……。「スポーツの秋」、運動会の次は持久走大会があります。

ところで、私事ですが7月末に長女が通う大学の埼玉県支部の集いが都内渋谷の大学構内で開催され私も参加しました。そこでは、学長も来賓として終始臨席し、保護者からの質問にも丁寧に答えられていました。日曜日の午後約半日、支部総会を始め、大学側からの構内の施設設備の紹介、学生生活の様子や進級・卒業に関わる成績関係、就職についての準備や卒業生の現況等の説明の後、最後に保護者からの質問に学長自らが答えるという姿勢に感動し、大学の規模には及ばないですが私も見習いたいと思いました。

さて、その集いの中で学長が、「大学の学び」についてお話された場面がありましたので、紹介したいと思います。学長も本学文学部出身で、『源氏物語』を研究したと仰っていました。

高校までの学びと大学の学びの違いとは、大学の学びは、これまで正しいと思われてきたことに疑問をもつこと、批判的に考えることである。

学びは素朴な疑問から始まる。

例えば、宇宙の始まりや成り立ちは？ 無から有は生まれないならなぜ宇宙は存在するのか？

疑うことから……現在はインターネット等でたやすく資料を検索できる。しかし、その資料はどれが書いたのか？ 原典は？ 結論に至った理由は何なのか精査しなければならない。

AI（人工知能）の解答でも Aという会社のAIの解答 Bという会社のAIの解答 同じなのか？ 違うのか？ 違った場合はなぜ違うのか？

複数の学びが大切 正解のない課題 「問い」と「答え」を追究する 根拠の確認

自分の考えと違う者との出会いは「喜び」である どこが違うのか？ 他者の考えを知る

「課題の学び」も大切だが その次は 「正解のない学び」

自分がこういう先生そして先輩、仲間と勉強したいという思い

4年間の学びの計画を → 一度は留学を これからはグローバル・共生社会

課外活動にも挑む → 部活動 サークル ボランティア

正解のない課題を主体的に意欲的に追究すること

最後に「（コロナ禍でも）学生の学びを守ることが学長の責務」という言葉が印象に残りました。

かつて、私が中学3年生を担当していた時、生徒から「僕は将来、科学者になりたいんですけど、どうしたらいいですか？」と質問されたので理科の先生に聞いてみたところ、「今まで当たり前と思ってきたことでももしかしたら本当は違うのではないかと考えてみることで、つまり疑ってみることが大切」という答えでした。文系の学長の話す内容と理系の先生が話す内容と一致しているのです。

今まで当たり前だと思っていたことが実は違っていたという事では、古くはコペルニクスの「地動説」が有名です。7月末に先の大学から「学報」が郵送されたのですが、『平家物語』の「扇的」で有名な「那須与一」は実在しなかったが「モデル」は存在したという論文が載っていました。『群書類従』で那須家の系譜をたどっていったところ、その発見があったようです。『論語』にも「温故知新」という言葉があります。実はこの言葉は、本来「故（ふる）きを温（たず）ねて（または、温め（あたため）て）新しきを知らばもって師たるべし」という一文です。小学生の「課題のある学び」で基礎・基本を確実に身に付けさせて、将来の「正解のない学び」につなげていけるように教職員一丸となって、温故知新の精神で、諸学力調査等の結果を踏まえ、後期の授業改善・学力向上を図ってまいります。

（校長 橋本 浩）